

こちらからも



紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号（紙面では匿名）を書き、左面の宛先へ。

専門医のアドバイスを検索!

からだの悩み Q &

Q

かかりつけの眼科で「翼状片」と診断されました。痛みや視力低下、赤目などの自覚症状はないのですが、手術しなくてはいいませんか。（女性、79歳）

A

白目の表面を覆う半透明の膜を結膜といいます。この結膜が鼻側（まれに耳側）から、黒目（角膜）に侵入して起きる病気が「翼状片」です。入り込んだ形が、三角形の翼のように見えることが病名の由来です。加齢とともにできることが多く、原因は不明。熱帯地方や農作業など屋外で仕事をされる方

## 視力低下なら手術を

に多いため、紫外線などの影響も考えられています。良性で進行も緩やかなので、通常はそのまま放置しても構いません。ただ、翼状片が角膜の中に入ると乱視になる場合がある上、角膜の中心近くまで入ると瞳孔を覆ってかなり見えにくくなります。ほかにも、ドライアイの原因になったり、結膜は血管が豊富なため、角膜が赤く充血したように見えたりもします。

一般的に乱視の影響で視力が落ちてきたら手術をお勧めします。翼状片が角膜の中心の半分ぐらいまで侵入してきたときが目安です。手術は日帰りです。当日は眼帯をしますが、局所麻酔をするので、それほど痛みは出ません。

注意したいのは、除去するだけでは再発が多い点です。翼状片を取った後、白目の部分に別の場所から取った結膜を持ってくる「遊離弁移植」をすると、再発をかなり防ぐことができ、黒目の赤みも取れてきれいです。いずれにしても、今は自覚症状がないようですので、様子を見てはいかがでしょうか。

（名古屋アイクリニック院長）

紙上  
診察室

中村 友昭さん

